「日々の理科」（第 2996 号）　2022,10,20

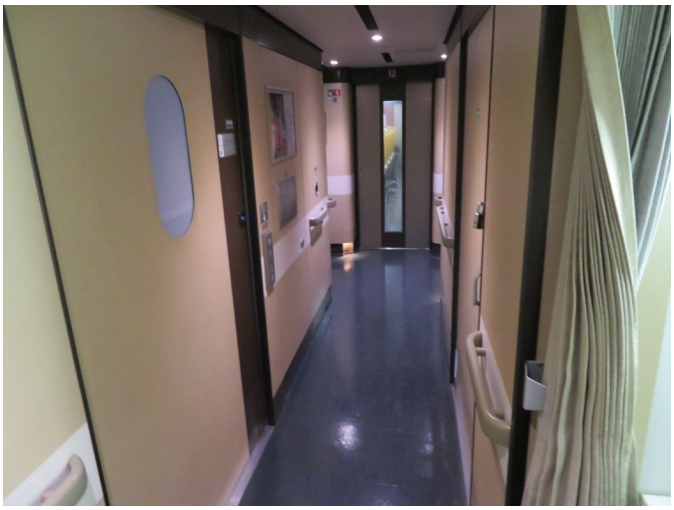
「秋の東北鉄道旅行（３）」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス＆エデュケーション研究所 研究員

田中　千尋　Chihiro Tanaka

「こまち号」の車内はとてもきれいだった。１号車～２号車の通路など、まるでホテルの廊下のようだ。



かつての在来線急行や特急は、座席（客室）以外には、和式トイレと簡単な洗面所ぐらいしかなかった。付帯設備よりも、座席の定員を最大限に増やすという発想だったのだろう。今の新幹線は、座席の定員を増やすことだけを考えずに、利用者が快適に過ごせるように最大限工夫されている。トイレはすべて洗浄便座付き、大型トイレにはおむつ取り換えスペースや、着替え用の台座までついている。授乳などに使える「多目的スペース」もあり、至れり尽くせりである。

新幹線は東北地方をひたすら猛スピードで飛ばし続け、東京から２時間ちょっとで盛岡に到着した。かつては寝台急行で、一晩かけて移動した距離である。

盛岡駅では、「こまち号」と「はやぶさ号」が切り離される。切り離しはすべて全自動で、先に発車する「こまち号」が離れると、連結器カバーが「パカッ」と自動的に閉じるのが面白かった。

盛岡駅には、友人（先輩）が迎えに来てくれていた。初めてではない土地でも、不案内な街で地元在住の方が出迎えてくれるのは安心だし、嬉しいものである。

盛岡駅から東側に向かうと、すぐに有名な「開運橋」を渡る。開運橋は北上川にかかる橋で、盛岡市のシンボル的な存在だ。この橋からは北上川越しに、岩手山がよく見える。この日は夜だったし、空も曇っていたので、残念ながら岩手山は見えなかった。